

高温予報を踏まえた施設園芸の技術対策

平成23年7月13日
北海道農政部

札幌管区气象台の7月8日発表によると、向こう1か月の平均気温が高い確率は50%です。

つきましては、以下の技術対策を参考に、適切な栽培管理に努めてください。

施設園芸

第1 野菜

1 施設管理

- (1) 生育の遅延や着果不良、セイヨウオオマルハナバチの飛翔低下など、高温障害に注意する。側窓、妻窓、天窗や換気扇等を活用して換気を十分に行うとともに、遮光や適切なかん水管理を行い収量、品質の向上に努める。
- (2) 遮光・遮熱資材を利用する場合は、曇天時の被覆は避け、過度な遮光にならないように注意する。
- (3) 高温時の薬剤散布は薬害を生じやすいので、高温となる時間帯を避けて夕方に散布を行う。

2 果菜類

(1) トマト

花卉の枯れや落花、カリ欠乏による葉枯れが増加しやすくなるので、生育に合わせた適切なかん水と追肥、葉面散布を行い、草勢維持と着果安定に努める。

また、地温上昇・乾燥に伴う「尻腐れ果」を防止するため、ベッド肩部や通路に厚めの敷きわらを敷き、乾燥が続く場合は適度な通路かん水も効果的である。

(2) きゅうり

側枝の発生や果実肥大が早まるので草勢を低下させないように、適期収穫と計画的な摘葉作業、適切なかん水と追肥に心がける。

褐斑病は、適切な栽培管理で樹勢を維持するとともに、発病葉を発見した場合は速やかに除去し薬剤散布を行いその後の感染を防ぐ。なお、一部の薬剤で耐性菌が出現しているので防除効果に注意する。

(3) ピーマン

日焼け果や尻腐れ果の発生防止のため、草勢にあわせた追肥とかん水を行う。さらに、地温上昇を抑えるため、ベッド肩部や通路の敷きわらを厚くしたり、乾燥が続く場合は通路かん水を多めに行うことも効果的である。

(4) メロン

半促成作型は、夜温が高くなりすぎないように十分な換気(夜9時以降15℃以上ではハウス開放)を行う。

トンネル作型は、ハダニ、アブラムシなどが発生しやすくなるので、適切な防除対策を実施する。

(5) いちご

高温により生理障害の発生が助長されるので、養水分管理を徹底するとともに、生育の低下や奇形果発生の防止対策として寒冷しゃ被覆を行う。また、ハダニ、アザミウマ類の適切な防除対策を実施する。

3 たまねぎ

最高気温が30 を超え、日差しの強い日が続くことが予想される場合は、日焼球が発生しやすいので根切り作業を行わない。

4 葉茎菜類

(1) はくさい、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、レタス

気温が高く、土壤水分が少ない条件では、石灰欠乏症などの生理障害が発生しやすいため、可能な限りかん水を行い、土壤水分の確保に努める。

ブロッコリー - の花蕾腐敗病は、花蕾形成始前後にカルシウム資材の葉面散布及び銅水和剤を2~3回散布すると防除効果が高い。ただし、花蕾肥大中期以後の銅水和剤による散布は、青白色の汚れを生じることがあるため散布を避ける。

(2) ほうれんそう

高温による発芽不良や生育の不揃いを防ぐため、は種前後の遮光やかん水による地温抑制と適水分管理に努める。また、溝底は種を行うことにより、高温期の安定生産に努める。収穫は、輸送中のビタミンC含量等の内部品質低下を防ぐため、夕方(おおむね16時以降)に行う。

第2 花き

1 施設管理

(1) 空気循環や換気を図り品目や生育ステージに応じた適切な温度管理を行う。特に強光高温時には、遮光・遮熱資材も活用する。

(2) 高温に伴う花き類の生育障害や品質低下を回避するため、かん水や分追肥を適正に行い健全な生育を促し良品生産に努める。

2 露地花き類の管理

(1) 露地栽培のきく、ゆり、グラジオラス、りんどう、草花類などは、乾燥が続くと伸長不良やボリューム不足となりやすいので、適切にかん水を行うとともに敷わらマルチなどを 行って生育を確保する。

(2) 病害虫の発生が多くなりやすいので、早期に発生状況を確認し適切な防除を行うとともに、ほ場周辺の寄主雑草などの除去、感染を拡大させる病株や病葉などを適切に搬出処分する。

3 切り花の採花と品質保持

切り花は気温の上昇に伴う「咲き過ぎ」に注意し、市場の要望に応じた「切り前」で適期に採花する。また、高温により採花後の品質低下も早くなるので、出荷までは涼しい環境で品目に応じた水揚げや品質保持処理、調製などを適切に行う。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-823）